2021年５月19日

各　位

会 社 名　株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル
代表者名　代表取締役社長兼ＣＯＯ　大澤　剛
（コード番号３６５２、東証マザーズ）
問合せ先　執行役員ＣＦＯ経理部長
（兼）経営企画部長　　家高　朋之
Ｔ　Ｅ　Ｌ　０３－６４５４－０４５０

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○　開催状況

開催日時　　2021年５月19日　13：30～14：30
開催方法　　オンラインによるライブ配信
開催場所　　当社会議室
（東京都中野区中野四丁目10番2号　中野セントラルパークサウス16F）
説明会資料名　2021年３月期決算説明会

【添付資料】
2021年３月期決算説明会資料

以　上

VISUALIZE THE FUTURE

DIGITAL MEDIA PROFESSIONALS

2021年3月期

決算説明会

株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル

2021年5月19日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。
様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1 2021年3月期 決算と取り組み成果

2 2022年3月期 事業環境と業績予想

3 中期経営計画

© Digital Media Professionals Inc.

1 **2021年3月期 決算と取り組み成果**

2 **2022年3月期 事業環境と業績予想**

3 **中期経営計画**

© Digital Media Professionals Inc.

2021年3月期 決算
損益計算書（P/L）概要

- 売上高は、LSI製品（アミューズメント向け画像プロセッサーRS1やAI FPGAモジュール）事業は増収だったものの、IPコアライセンス事業やプロフェッショナルサービス事業における、新型コロナ感染症を主因とした一部顧客の開発投資／開発プロジェクトの抑制・延伸の影響に加えて、前年度に計上した大型GPU IP案件の剥落により減収
- 減収、特に高利益率のIPコアライセンス事業の減少により、営業利益、経常利益、当期純利益は大幅な赤字となった

（単位：百万円）	2020年3月期 (個別)	2021年3月期 (連結)
売上高	1,328	**1,009**
営業利益	82	**△425**
経常利益	85	**△361**
当期純利益	65	**△364**

注）1. ベトナム子会社の事業開始に伴い、2021年3月期は連結決算体制に移行（前年同期との単純比較できず）
（但し、ベトナム子会社の売上高は現段階では本社へのデザインサービス収入のみで、外部売上なし）
2. 2021年3月期の当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

© Digital Media Professionals Inc.

事業別売上高概況

IPコアライセンス事業

売上高　144百万円　　前年同期個別（参考）380百万円

- ロボティクス向け等のAI新規・アップグレードライセンス収入、 安全運転支援に係るランニングロイヤリティ、サブスクリプション収入を計上
- 前年度第4四半期に計上した大型GPU IP案件が剥落
- 一部顧客の開発投資／開発プロジェクトの抑制・延伸の影響あり

LSI製品事業

売上高　658百万円　　前年同期個別（参考）553百万円

- RS1の量産向けおよびAI FPGAモジュール「ZIA™ C3」（業務車両向け量産含む）の売上を計上

プロフェッショナルサービス事業

売上高　206百万円　　前年同期個別（参考）394百万円

- NEDO AIエッジコンテストの受託収入および安全運転支援、ロボティクス向け等のAI関連受託開発サービスの売上を計上
- 一部顧客の開発投資／開発プロジェクトの抑制・延伸の影響あり

© Digital Media Professionals Inc.

貸借対照表（B/S）概況

自己資本比率は93.5%と高水準を維持

運転資金や研究開発体制の充実に向けた投資の資金を継続確保

（単位：百万円）	2020年 3月末 (個別)	2021年 3月末 (連結)	主な内訳
流動資産	3,077	2,736	現預金 2,066, 有価証券 345 売掛金 157
固定資産	763	740	投資有価証券 500 ソフトウエア 104
資産合計	**3,841**	**3,477**	
流動負債	279	208	買掛金 132
固定負債	18	18	資産除去債務 17
負債合計	298	227	
純資産合計	**3,543**	**3,250**	資本金 1,838, 資本剰余金 1,858 利益剰余金 △440
負債･純資産合計	**3,841**	**3,477**	

© Digital Media Professionals Inc.

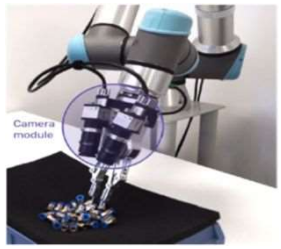
2021年3月期 注力分野の取り組みと成果
ロボティクス分野

ロボティックビークル、協働ロボットの技術・製品ポートフォリオの充実とエコシステムを活用した市場開発を実行

- **ZIA™ SLAM, ZIA™ MOVEの開発・提供**
  - LiDARと比較して安価なカメラを用いた高精度なVisual SLAM※により、顧客機器の高性能化、コスト低減に貢献
  - ZIA™ SLAMを包含し、ロボティックビークルに必要な機能を完備した自動・自律運転向け統合ソフトウエアプラットフォーム「ZIA™ MOVE」を開発



- **Cambrian社との資本・業務提携**
  - 協働ロボットアーム向けビジョンシステムメーカーのCambrian社に資本参加
  - 同社製品の日本における独占販売、テクノロジー及び製品の共同開発で提携することで、ロボティクスのポートフォリオ強化と事業拡大を図る



- **米NVIDIA社「NVIDIA Partner Network」にプロフェッショナルサービスパートナーとして参画**
  同社のエコシステムを通じ顧客ベースを拡大
  顧客のロボティクス製品の早期開発・市場投入の実現に貢献、ビジネスの加速・ 強化を図る
- **ヤマハ発動機との協業**
  - 各種製品ロードマップに沿ったAI実装の取り組みを継続
  - 協業の成果として、高精細小型組込み単眼カメラシステムの外販を2022年３月期に開始予定



※ SLAM：Simultaneous Localization and Mappingの略。自己位置推定と環境地図作成を同時に行うこと

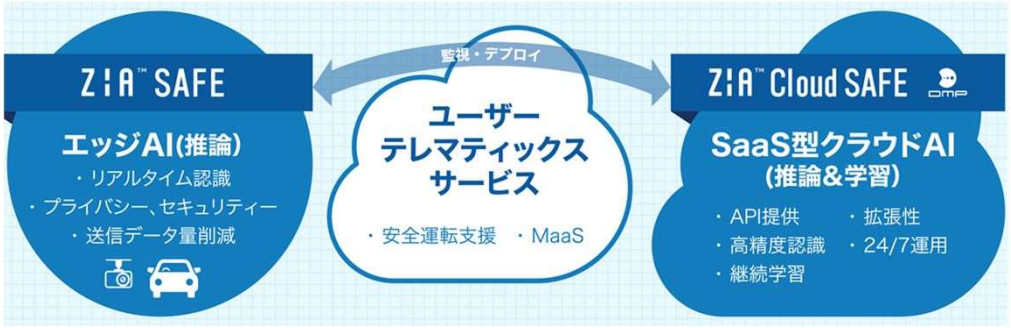
© Digital Media Professionals Inc.

2021年3月期 注力分野の取り組みと成果
安全運転支援分野

エッジ～クラウドの統合安全運転支援システム開発プラットフォーム構築により、ビジネス拡大の素地が整う

- **ZIA™ SAFEとZIA™ Cloud SAFEの連携による安全運転支援サービスを提供**

  ZIA™ SAFEとアマゾン ウェブ サービス (AWS) を使ったSaaS型安全運転支援クラウドサービスZIA™ Cloud SAFEの連携により、業界初のエッジAIからクラウドまで一貫対応した安全運転支援システム構築のプラットフォームを提供



- **採用実績の積み上げ**
  - ZIA™ SAFEが、株式会社JVCケンウッドが提供するテレマティクスサービス向け通信ドライブレコーダー(製品型番STZ-DR00)に採用、運転支援やドライバーモニタリング等の機能に活用
  - ZIA™ Cloud SAFEが、株式会社デンソーテンが発売している法人向けの通信型ドライブレコーダー「G500Lite」に採用、ヒヤリハット映像の判別や「ながら運転」や「居眠り運転」の高精度分析に活用

- **リカーリングビジネスの開始**

  ロイヤリティ収入の計上を第２四半期に、サブスクリプション収入の計上を第４四半期に開始
  2022年3月期より、通年寄与

© Digital Media Professionals Inc.

その他の取り組み

顧客のAIシステム開発に資するベンチマークプラットフォームを構築、海外テック会社との協業も継続中

ZIA™ Showcase

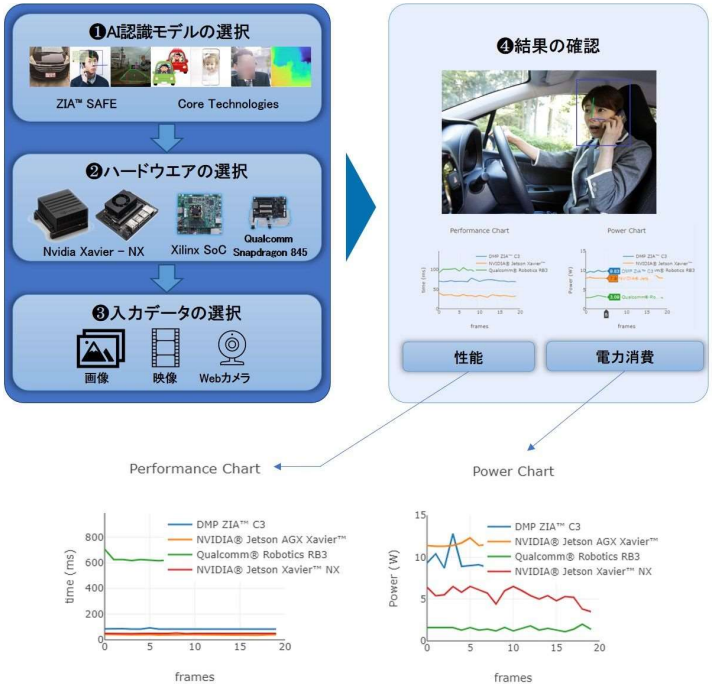
- 当社の最新エッジAI認識モデルのデモとベンチマーク向けプラットフォーム
- お客様は、オンライン環境で効率よく、お客様自身のデータセットを用いた最適なAI認識モデルとハードウエアの組合せを評価・検証可能
- 現状はZIA™ SAFE関連のモデル中心、ロボティクス分野等に拡張予定

海外テック会社との協業

- フランスのProphesee社のイベントベースビジョンセンサーを使ったAIアプリケーションの開発に関わる顧客プロジェクトでの協業が進行中
- 人間の脳に着想を得た超低遅延コンピューティングのパイオニアであるフランスのGrAI Matter Labsと新しいバーチャルAIスポーツコーチアプリケーションを共同開発

NEDO事業の推進

- 「高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティング技術開発に係るアイデア発掘のための課題調査」においてAIエッジコンテストを運営
- 同助成事業として、「省電力AIエンジンによる人工知能プラットフォーム」の開発および「癌コンパニオン診断用AI病理画像システム向けAIハードウエア研究開発」に取り組んだ



© Digital Media Professionals Inc.

1 2021年3月期 決算と取り組み成果

2 **2022年3月期 事業環境と業績予想**

3 中期経営計画

© Digital Media Professionals Inc.

事業環境

● 日本／世界経済

- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行の長期化の影響により、ワクチン接種が行き渡るまでは厳しい状況が続くことが予想される

● 半導体／AI業界

- 半導体は、短期的には足下の需要過多、供給不足が継続し、中期的にもAI／IoT向けの需要の拡大が見込まれる
- 少子高齢化、コロナ禍、気候変動といった社会・環境課題を克服するためのAIをはじめとしたテクノロジーの進化が期待できる

● 遊技機業界

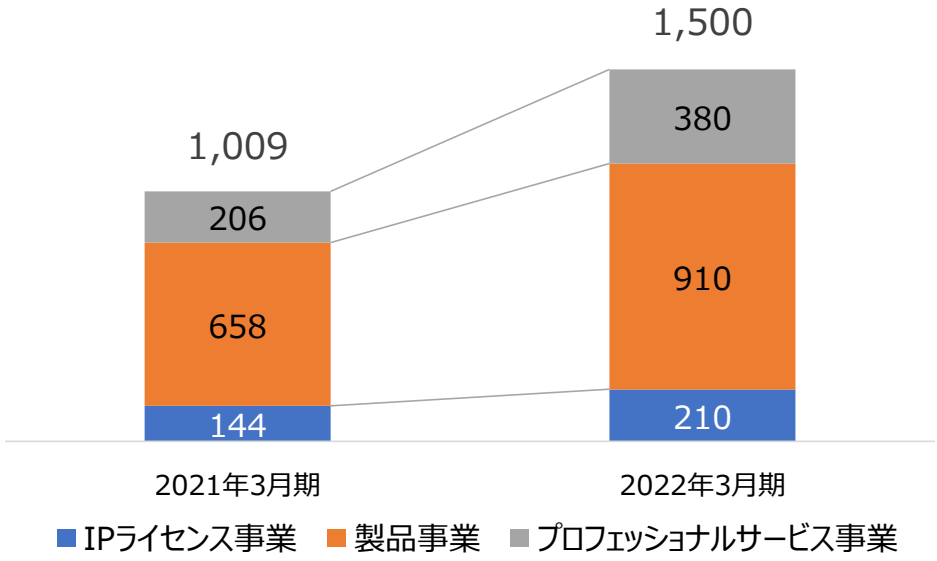
- 遊技機メーカーは2022年1月末の旧規則機完全撤去、新規則機への入れ替えに向けて増産を計画
- 東京オリンピック期間中も遊技機の計画的な入れ替えは継続
- コロナ禍の長期化により、ホールの稼働率や遊技機購入方針は予断を許さない

© Digital Media Professionals Inc.

2022年3月期
通期連結業績予想

- アミューズメント向け画像プロセッサーRS1は市場活性化により売上拡大するものの、流通在庫の滞留の影響あり
- 安全運転支援分野はリカーリングビジネスが通年寄与開始、ロボティクス分野も顧客の開発投資回復／活性化により拡大
- 中期的・持続的な成長に向けた開発体制強化に関わる人的投資を継続

（単位：百万円）	2021年3月期（実績）	2022年3月期（予想）
売上高	1,009	**1,500**
営業利益	△425	**△250**
経常利益	△361	**△250**
親会社株主に帰属する当期純利益	△364	**△252**



© Digital Media Professionals Inc.

1 2021年3月期 決算と取り組み成果

2 2022年3月期 事業環境と業績予想

3 **中期経営計画**

© Digital Media Professionals Inc.

中期経営計画の基本方針

社会・環境の大きなトピック・課題である「少子高齢化」、「コロナ禍」、「気候変動」等の克服に社会や政界・経済界全体として取り組む機運の高まり



当社は、社会環境の変化をチャンスと捉え、社会・環境課題の解決に貢献することによって、収益/利益を獲得し、企業価値を向上させるCSV (Creating Shared Value) 経営を実現

2021年３月期
新型コロナウイルス感染症の流行によるアミューズメント市場の停滞や顧客の開発投資の抑制の影響により、業績が悪化

中期経営目標
ロボティクス分野、安全運転支援分野に注力し、V字回復を果たす
2024/3月期 売上高25億円、営業利益2億円

© Digital Media Professionals Inc.

社会・環境変化/課題とDMPの取り組み

メガトピック	社会・環境変化/課題	DMPの取り組み
少子高齢化	・労働人口減少 ・ｴｯｾﾝｼｬﾙﾜｰｶｰ労働過多 ・技能継承問題 ・高齢者自動車事故増 ・交通弱者の存在 ・インフラ老朽化	・ロボティクス領域における自動・自律化の取組みにより、労働人口減少、過酷労働、コロナ禍を補完する生産性の向上・業務効率化、省人化・省力化に貢献 ・安全運転支援サービスの提供により、リアルタイムの事故防止やヒヤリハット事象に基づく安全運転教育に貢献 ・自動運転技術により、MaaS※推進に貢献 ・顧客の開発プロジェクトにVR（仮想現実）環境を提供 ・ハードウエア（IP）の低消費電力化により、グローバルな低炭素社会化に貢献 ・AI画像認識技術を活用し、インフラ検査に貢献
コロナ禍	・リモート化、オンライン化の進展 ・デジタルシフト ・EC（電子商取引）拡大 ・外国人労働者減	
気候変動	・温室効果による平均気温の上昇 ・自然災害の増加 ・農業生産量・食糧減	

SDGsへの貢献



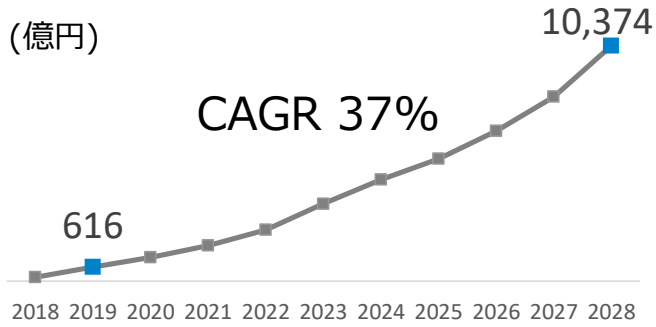
※ MaaS：Mobility as a Serviceの略。自動運転やAI、オープンデータ等をかけあわせ、従来型の交通・移動手段にシェアリングサービスを統合した次世代の交通のこと

© Digital Media Professionals Inc.

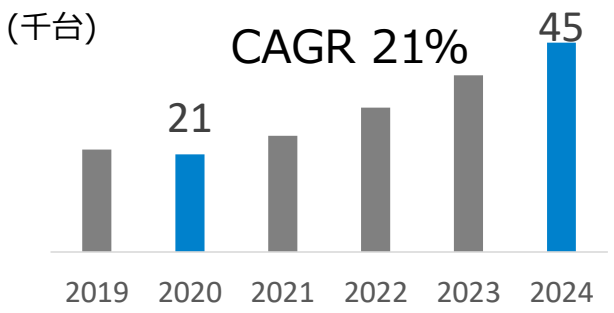
市場動向

- ロボティクス、安全運転支援関連市場は高い成長率を示す
- 遊技機市場は継続して減少しているものの、依然100万台超の規模がある

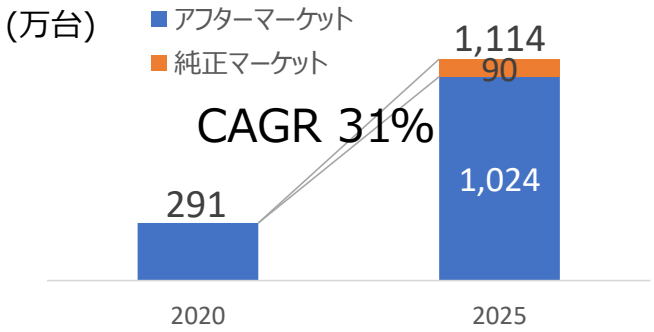
ロボティックビークルのAI関連コンピューティングハードウエア世界市場※1



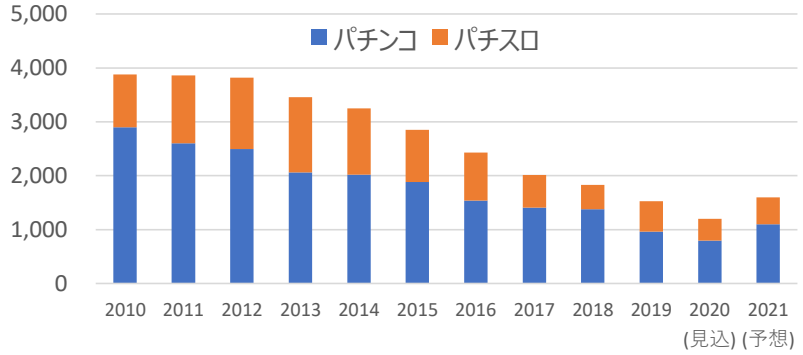
協働ロボット世界出荷台数※2



AI/通信機能搭載ドライブレコーダー国内市場※3



遊技機販売台数推移※4

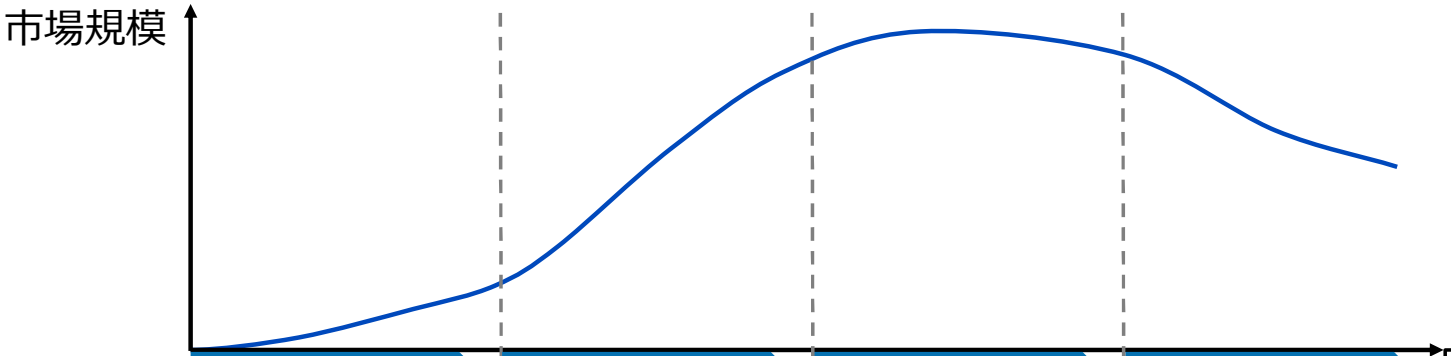


出典：※1 Yole Développement, ※2 グローバルインフォメーション, ※3 各種統計より当社推計, ※4 矢野経済研究所、見込・予測は大和証券レポート「遊技機市場の見通し」2021年3月30日

© Digital Media Professionals Inc.

主力事業の市場ライフサイクルと基本戦略

・リカーリングビジネスを含む安全運転支援分野のビジネスノウハウ、ビジネスモデルをロボティクス分野成長に応用
・アミューズメント分野はCOVID-19によるボラティリティ増大リスクを念頭に、刈り取りを実行



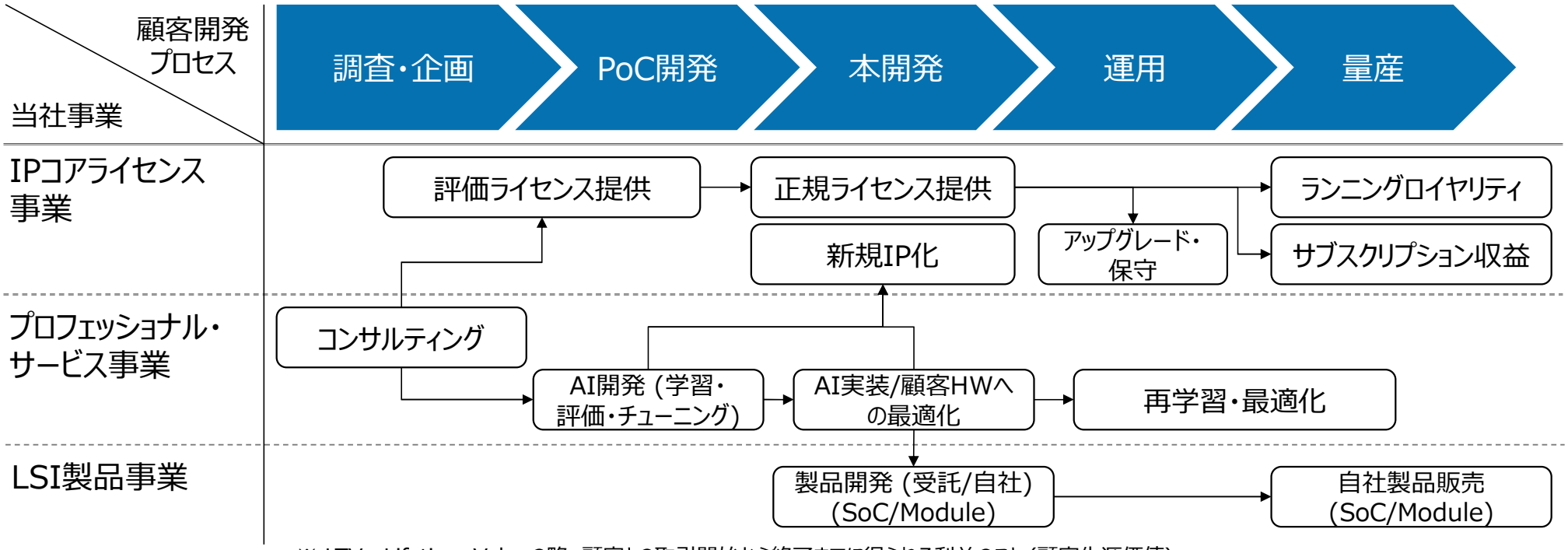
	導入期	成長期	成熟期	減少期	基本戦略
ロボティクス	◎				PoC※案件獲得から本開発機会の最大化
安全運転支援		◎			ソリューション充実による顧客数の拡大と顧客プロジェクトの深耕
アミューズメント			◎		品質維持・向上と顧客内シェア拡大により残存者利益の最大化

※ PoC：Proof of Conceptの略。新しい概念や理論、原理を本格的に導入する前に行う実現可能性に関する検証・試行のこと

© Digital Media Professionals Inc.

収益サイクル

- 顧客製品の開発ライフサイクル全体（企画~量産）に渡る、付加価値提供、LTV※最大化
- 顧客プロジェクトで培ったテクノロジー・ノウハウに基づく標準製品・サービスの開発・提供により、顧客開発に柔軟、迅速に対応するとともに、利益率の向上を図る



※ LTV：Lifetime Valueの略。顧客との取引開始から終了までに得られる利益のこと（顧客生涯価値）

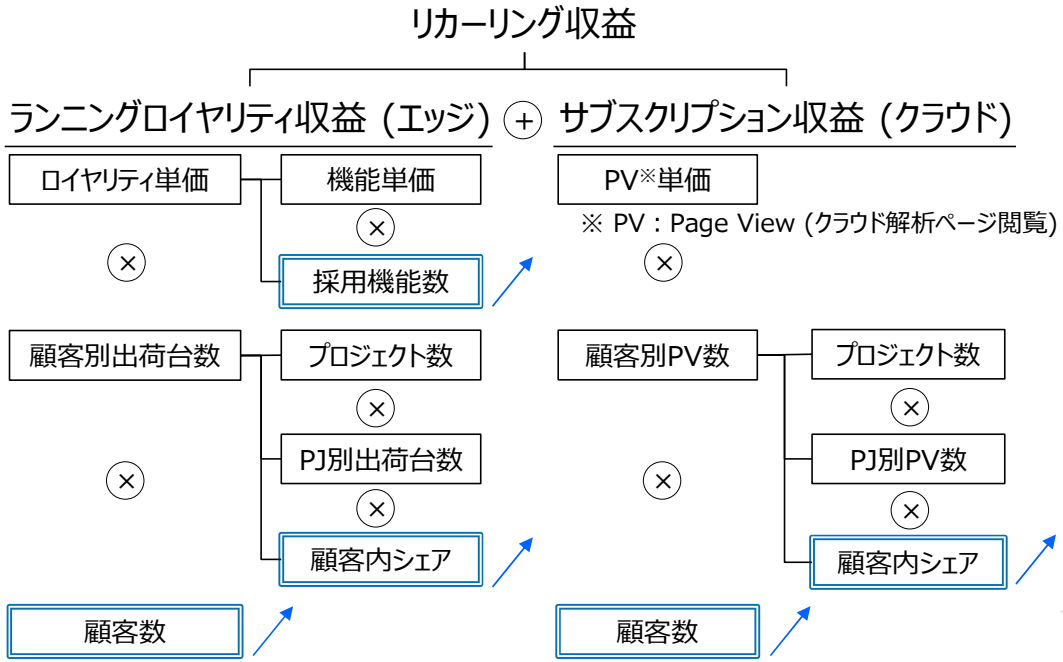
© Digital Media Professionals Inc.

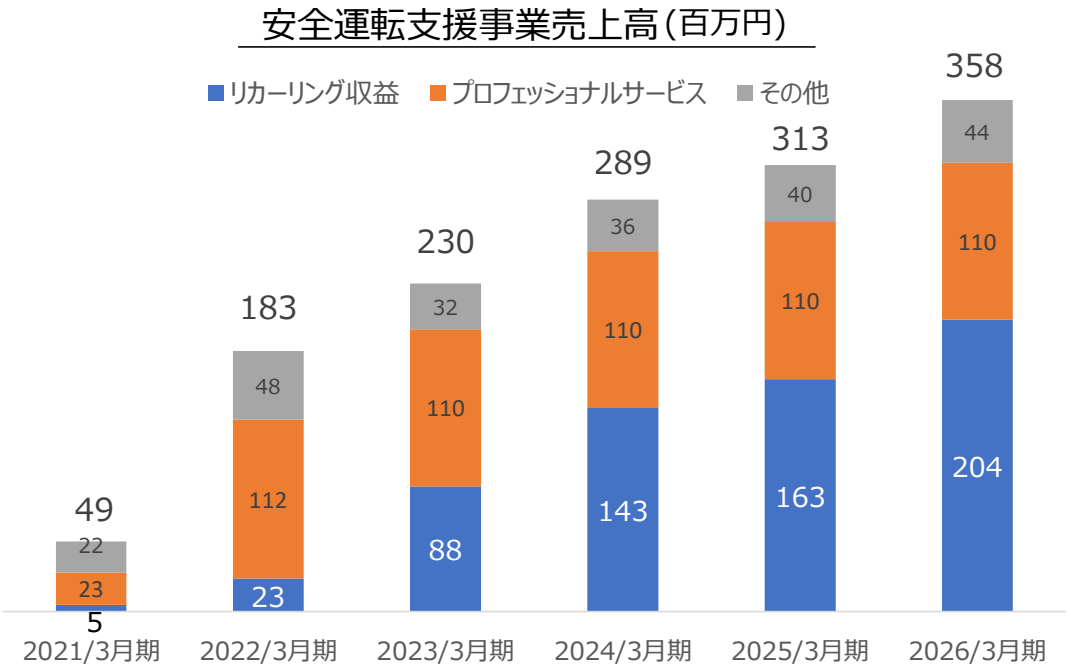
注力分野数値目標
安全運転支援事業

■ リカーリングビジネスにより、お客様のニーズに柔軟に対応するとともに、安定的収益を確保

2021年3月期より提供を開始したZIA SAFE (エッジ)、ZIA Cloud SAFE (クラウド) の機能/性能 向上・新規追加により、顧客内シェア、顧客数の拡大を図る（リカーリング収益比率：2021/3月期 10% → 2026年3月期 57%）

■ 顧客プロジェクトの要件に合わせたプロフェッショナルサービスを提供





© Digital Media Professionals Inc.

注力分野数値目標
ロボティクス事業

■ 強みであるアルゴリズム、ソフト、ハードのトータルソリューションにより市場成長率を上回る成長を目指す

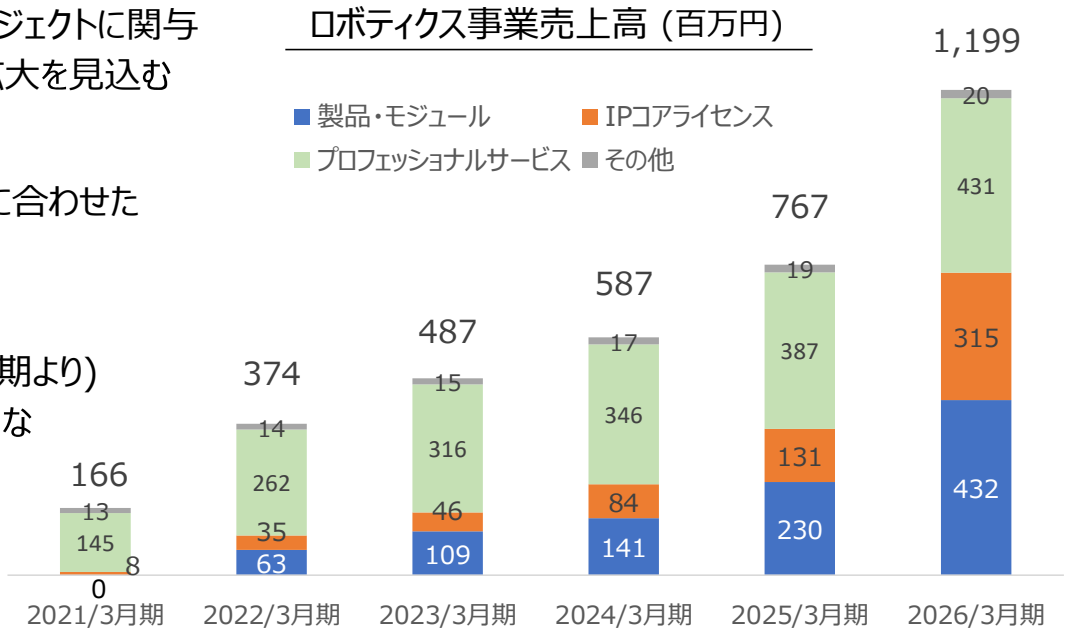
当社事業CAGR 48% ↔国内ロボット市場※CAGR 19% (2020年度 1,336億円-2026年度 3,858億円)

(但し、2020年度は顧客開発投資の抑制の影響あり、2019年度当社実績189百万円から6年間のCAGRは36%)

- IPコアライセンス
  - ZIA MOVE、ZIA SLAM、ZIA ISP等の機能/性能向上・新規追加や柔軟性を持たせたライセンスの提供により、PoC開発段階から幅広い顧客プロジェクトに関与
  - 2025年3月期以降、顧客製品の本格量産に伴うライセンス収入拡大を見込む
- プロフェッショナルサービス

  ヤマハ発動機の開発受託に加えて、幅広い顧客プロジェクトの要件に合わせたプロフェッショナルサービスを提供
- 製品・モジュール

  顧客の製品開発、生産性向上に資する製品を提供 (2022年3月期より)
  - ヤマハ発動機との協業成果外販を含め、自動走行ロボットに不可欠な高性能カメラシステム製品（モジュール）を開発・販売
  - Cambrian社ビジョンシステムによる協働ロボット市場開発

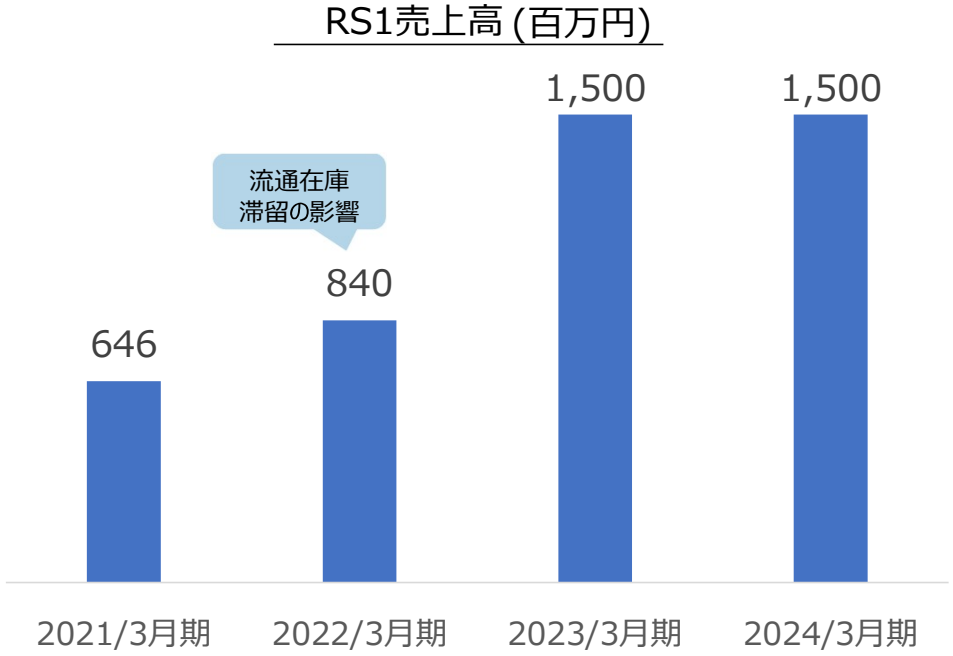


※ 出典：野村総合研究所 ITナビゲーター2021年版

© Digital Media Professionals Inc.

アミューズメント事業の中期見通し

- 2021年度の当社出荷は2020年度より増加を見込むが、流通在庫滞留の影響を織り込む
- 2022年度に既存顧客機種への採用拡大の本格化、新規顧客獲得を見込む (確定事項)
- 市場のボラティリティを注視しつつ、引き続き、当社のユニークな2D・3D統合チップの優位性を発揮できる市場セグメントにおけるシェア拡大、新規顧客参入を目指す

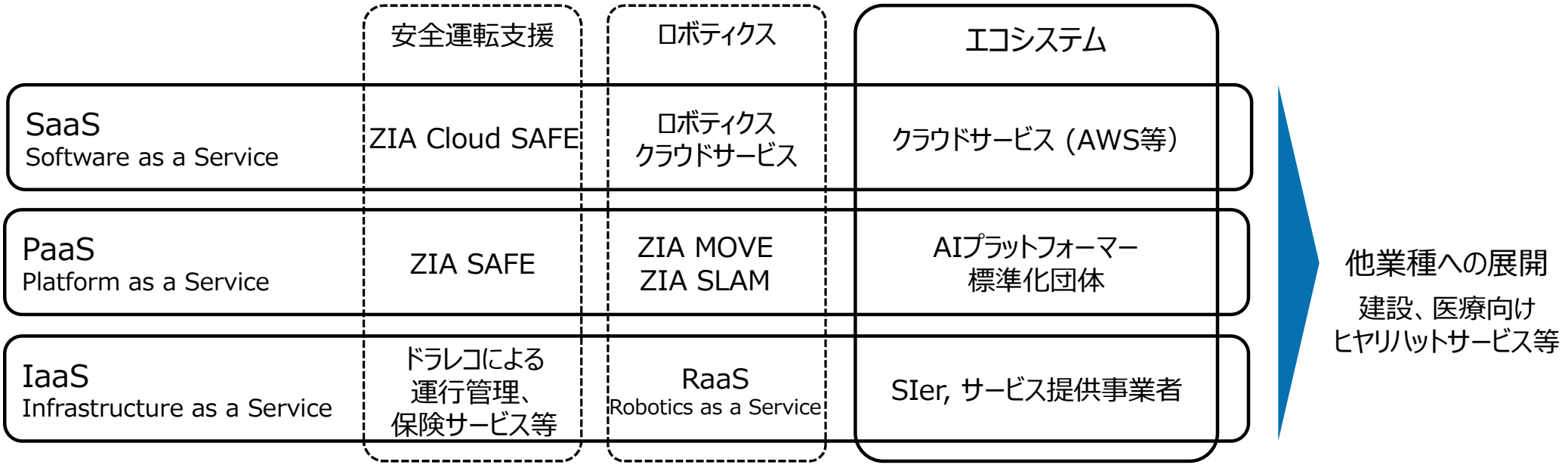


© Digital Media Professionals Inc.

持続的成長に向けて

・各種プラットフォーマー、サービス提供事業者等のエコシステムとの緊密な連携によるネットワーク効果を発揮し、注力領域のXaaS※を幅広い顧客に提供するプラットフォーマーとして、持続的なオルガニック成長を目指す

・注力事業領域の競争力補完に資するM＆Aや事業提携により、ノンオルガニック成長も積極検討



※ XaaS：X as a Serviceの略。様々なものを（クラウドを通じた）サービスとして提供すること

© Digital Media Professionals Inc.

連結業績目標

- 2022年3月期
  アミューズメント事業や顧客開発投資の回復とともに、安全運転支援、ロボティクス分野の事業拡大により売上増を見込むが、持続的成長のための開発体制強化に関わる人的投資等により営業利益は赤字予想
- 2024年3月期
  注力分野事業の拡大により、**売上高25億円**、**営業利益2億円**を目指す
- 2026年3月期
  アミューズメント事業を除き**売上高16億円以上**を目標とし、XaaSビジネスの水平展開により、更に上乗せを目指す

（百万円）	2021年3月期（実績）	2022年3月期（予想）	2024年3月期（目標）	CAGR (21/3-24/3)
売上高	1,009	1,500	2,500	35%
営業利益	▲425	▲250	200	
経常利益	▲361	▲250	200	

© Digital Media Professionals Inc.

＜お問い合わせ先＞

株式会社ディジタルメディアプロフェッショナル 経営企画部

TEL:03-6454-0450

URL: https://www.dmprof.com/jp/ir/

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。

© Digital Media Professionals Inc.